



JASA-CISA、MOU締結のご報告

梅雨の中休みか、運よく晴れとなった6月30日にJASA築田会長を団長とした代表一同が台湾へ向けて出発し、中華民国資訊軟體協会(以下CISAと略称を表記)とMOUを締結して参りました。今回はそのご報告を申し上げます。

かねてより国際委員会はJASA会員の皆様に役立つ海外情報の発信と海外人脈ネットワーク構築を積極的に取り組んでおります。委員会では一昨年より台湾のソフトウェア協会に注目し、JISAと連携して台湾情報サービス団体の「CISA」と交流を始めておりました。

昨年より数回CISA代表団が来日し、廣田国際委員長とCISA邱月香理事長との交流を重ね、情報交換をしておりました。その中で両国の組込みソフトウェア分野の発展や、新たな市場・調達先として日本企業が台湾進出をする際の、また、台湾企業とのアライアンスによるアジア進出をする際の足がかりになるのではと期待し、この度MOUを締結して参りました。

「2016 Taiwan×Japan Connect To Future」6月30日初日歓迎会へ出席

台湾への到着後間もなく、日本統治時代の樟脳倉庫を改築したカフェレストラン「YU YU ART CAFÉ」で行われた歓迎会に出席しました。



歓迎会・調印式でのシーン



会場では千年古木「紅豆杉」をバックにCISA邱月香理事長より歓迎の挨拶がありました。

ドイツをはじめとした先進工業国がIoTを基盤にした「Industry 4.0」の広がるなか、台湾新政権はソフトパワーを活用する経済立国の方針を打ち出し、CISAとしては日本との交流を最重要課題としているとの事、又CISA邱月香理事長は日本の優秀な人材活用のため台湾部工業局に対し、訪台への優遇政策を拡大させていくこと等を述べられました。

また、続いて挨拶をされた台湾經濟部工業局副部長呂正華氏は、CISA邱月香理事長就任後の台日交流を評価し、「Taiwan×Japan Connect To Future」を主なテーマとして、工業局も台日のインタラクティブ経済交流活動を応援、推進することを述べられ、「Dream come true」に向



MOU調印式

けて、JASA、JISA並び訪台日本企業関係者に感謝の意を頂きました。

MOU締結

2016年7月1日午前9時、台北国際会議中心で開催された台日ソフトウェア交流商談会にて、JISA国際委員会副委員長 鹿島様、台湾經濟部工業局副組長 謝様立会いの下、JASAとCISAの「MOU締結」調印式を行いました。締結の概要は次の通りです。(覚書からの抜粋)

相互の利益及び活動がある場合、各当事者は、相手方に対して以下の支援措置を講じるよう努める。

- ・事業派遣団の受け入れ
- ・派遣団に対する組込みシステム業界の動向及び概要の説明
- ・会議への招待並びに派遣団に関するニュース及び情報の関係組織への配付
- ・組込みシステム市場及び組込みシステム事業に関する情報を共有するためのフォーラムの共催又は開催の支援

・上記事項に関するその他の支援

CISA 邱月香理事長は冒頭のご挨拶で、台湾と日本におけるソフトウェア業界の交流に向けて自ら就任後3年間の抱負を、「一年目はMAKE FRIENDS(仲良く)、二年目はTAKE ACTION(行動を起こす)、そして三年目の今年はMAKE DREAM COME TRUE(夢を実現に)」とされていたようです。今回のMOU締結により、台湾協会・台湾企業との結びつきを強め、お互いのソフトパワーによる発展と、台湾との連携によるア

ジアの創造力推進が期待できるとの印象を抱きました。

歓迎会、MOU締結調印式共に非常に友好的な雰囲気の中で実施され、双方における期待の高さが窺えました。今回のMOU締結をきっかけに、国際委員会では、台湾情報サービス団体との交流を更に深めて参ります。JASA会員企業の海外進出の支援に繋がるよう、情報交換やビジネスマッチングなどの期待にも応えられるよう取り組んで参ります。

タイ視察レポート

1. 目的

視察の目的

海外経験のない中堅管理職に対し、直接現地に触れ、体感することでグローバル化の視点を植え付け、海外出張や海外勤務などに関し抵抗を少なくする

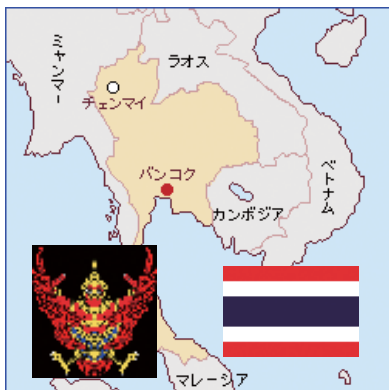
視察先

グローバル化に対応できる中堅管理職の養成の場として、ASEAN(AEC)で最も産業蓄積が進んでおり、生産拠点から、消費地としても見直されつつあり、IT産業も成長してきているタイへの視察を企画した。

2. タイについて

タイ王国

1)面積 51万4,000平方キロメートル(日



- 本の約1.4倍) 50位
- 2)人口 6,718万人(2014年) 20位
- 3)首都 バンコク
- 4)民族 大多数がタイ族。その他 華人、マレー族等
- 5)言語 タイ語
- 6)宗教 仏教 94%, イスラム教 5%
- 7)総貿易額 (2015年)
 - (1)輸出 2,121億ドル
 - (2)輸入 1,775億ドル
- 8)主要貿易品目
 - (1)輸出 コンピューター・同部品, 自動車・同部品, 機械器具, 農作物, 食料加工品
 - (2)輸入 機械器具, 原油, 電子部品
- 9)主要貿易相手国・地域(2015年)
 - (1)輸出 1.米国 2.中国 3.日本
 - (2)輸入 1.中国 2.日本 3.米国
- 10)GDP 3952億ドル(日本の約1/12 ベトナムの約2倍)
- 5,878ドル/1人(日本の約1/7 ベトナムの約2.5倍)
- 11)経済成長率 2.8% (ベトナム6.68%)
- 12)失業率 0.8% (ベトナム2.31%)

3. 視察内容

6/14 キックオフミーティング

(ゲスト:都産技研 バンコク支所3名)

オリエンテーリング、自己紹介、タイの紹介など

6/15(AM) 泰日経済技術協会(TPA)訪問

TPAの説明、ディスカッション/TPA付属技術振興センター視察(校正サービス(工業計測機器/実験器具校正・検査)など)



・親日であること、電力やインフラがしっかりしている。日本企業とは50年で日本人は6万人位。

・産業研修、言語研修、文献収集・翻訳、キャリブレーション(機器校正)などの事業。
・高齢化(人口ボーナスは今年まで)、給与上昇、今後先進国になれるのかがタイの課題。

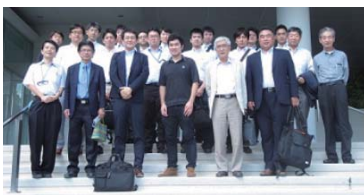
・今後、IoT(工場の自動化)など、日本の専門家を招聘して行いたい。

・価値を上げることが急務(パーツから組み立てへ〜デザイン、開発、サービス)

・日本の技術はそのまま使えない、チューニングが必要。

6/15(PM) 泰日工業大学(TNI)訪問

TNIの説明、ディスカッション／泰日工業大学内視察(講義風景、映像製作現場など)



TNIは、TPAが創立30周年を迎えた2003年、これまでの事業実績・経験を生かして「日本型ものづくり大学」の設立を決定、2005年3月、バンコク市内に土地を購入し、2006年1月に大学施設の建設を開始、2007年2月に第1期工事を完了、2007年6月開校。



・日系企業のニーズに対応して日本的ものづくり思想のもと、専門能力、語学(英語・日本語)

・企業のニーズに応えた教育を実施。

・ニーズが企業にアンケートしている。

・IT関連の学生の多くはタイ国内で就職している(ソフトウェア開発を行うというより、導入や保守を行う企業が多いようである)

6/17(AM) Instepグループ訪問

タイの現状、Instepグループ企業説明、ディスカッション／視察(開発現場など)



・社員約200名

・グループCEOのウィワットさんは東京大学卒業。

・入退室管理システムなどを開発販売している。画像処理や高速演算アルゴリズムなどを得意としておりFPGA用のIPはNASAに採用された。

・ソフトウェアやハードウェアの開発を各グループ会社で行っている。

・TPAの話と同様、現在タイは今後先進国の仲間入りするのか、停滞するのかの分岐点。

・農業が最大の産業だが、全体の40%まで落ちている。

・製造業は日本からで、繊維に始まり現在は自動車メインになっている。

・給与は上がっているが、日本のメーカーからはコストダウンを迫られている。タイは給与に合わせ、価値を上げていきたいが、

日本企業には困っている。

・タイは東南アジアでは憧れの国で、各国から出稼ぎに来ている(ミャンマーからは600万人と言っていたが、200万、400万などとも言われており実態は不明)

6/17(PM) アマタナコン工業団地(太田テクノパーク内DAIWA ASIA)訪問

オオタテクノパーク・DAIWA ASIAの説明、ディスカッション／泰日工業大学内視察

・アマタナコン工業団地はかなり広く、日本のメーカーが非常に多く存在している。

・工業団地はアマタナコンコーポレーションが土地を取得、建物を建て貸出を行っている。

・オオタテクノパークは大田区の中小製造業が集まって区画を借りている

・DAIWA ASIAでは自動車の照明系ハーネス等の製造(少量・多品種)を手で行っている。

・タイの人は、丁寧に教えれば真面目に仕事に取り組んでくれる。

・人は給与が良ければパーク内ですぐ移ってしまうので、引き留めるための施策は苦勞する。

・タイでは給与水準が高いため、単純作業はラオスに移す(既に工場設立済) 給与は1/3。

・タイの最低給与は300バーツ/日、単純作業のワーカーでも約4万円/月位になるらしい。

6/17(PM) 東京都立産業技術研究センター(バンコク支所)訪問

タイ産技研の説明、ディスカッション

・2015年4月設立、現在3名で対応している。

・3名中2名は企業(大手電機メーカー)のOBで、国際経験豊富という事で声がかかったとの事。

・タイ工業省や現地の工業会、東京都中小企業振興公社などの公的な経営支援機関と連携。

・現地での企業に対する技術支援に取り組んでいる。

・支援の内容は主に、パーツ加工やPLC関連がほとんどで、マイコン関連はほとんど無い。

・タイは元々繊維や食品加工が中心だったが、90年代にインフラが整備されカーメーカー、Tier1、2が入ってきた、自動車は裾野が広いので大きく伸びた。

・帰国後、東京都立産業技術研究センターの方と話したところ、海外展開はバンコクが初めてであり、結果を出さなければならぬので、必死になっているとの事。

4. 感想

タイ(というよりバンコク)について

街中は東南アジアという印象(ハノイなどに似ている)があるが、実際に街中を歩いてみたり、地下鉄に乗ってみたりすると、ベトナムに比べかなり成熟していることがわかる。(どこでも道を横断しない、信号は守

る、道を譲る、店員が丁寧、電車の待ち行列を乱さない、切符の買い方を教えてくれる)

英語や日本語もある程度通じるので、コミュニケーションはあまり困らない。自動車取得に対する優遇措置があったらしく、走っている車は殆ど最新型で、それもほとんどが日本車である。

この優遇措置で車を買った人が多く、その後支払の為GDPが落ちたとの事である。

タイのITについて

自動車などの製造業で発展してきたため、IT関連の事業は極めて少ないようだ。

IT企業もそれなりにあるようだが、ソフトウェア開発というよりもシステム導入や保守などが中心らしい。自国で自ら開発するような土壌もなさそうだし、他の国からオフショアで請けようにも、今からベトナムなどには太刀打ちできる状況ではないと思われる。

タイに進出したカーメーカー等からソフ

トウェアの現地生産なども考えられるが、これでは先進国になれない。タイは非常に難しい局面にあると強く感じる視察であった。

5. アンケート結果

参加者より

今回の視察ツアー参加者アンケートでは、訪問先や委員の対応など、全般的には満足頂き、海外を体感するという事では目的を達成できたと思いますが、IT企業の訪問先が少なく、自らの業務に於けるグローバル化という点では物足りない部分もあり、今後の課題も明確になりました。ご協力頂いた方々には大変なご尽力を頂き、誠にありがとうございました。

今後もJASA会員の皆様に満足して頂けるような海外視察ツアーを企画してまいりますので宜しくお願い致します。

TCAと新たなMOUを締結 台湾IoT視察団歓迎イベント報告

8月23日、台湾IoT視察団23名の来日を受け、JASAでは歓迎イベントを催しました。築田会長の開会挨拶にはじまり、歓迎セミナーとして、佐野協業委員長より「日本におけるIoTの潮流」と題した講演。続いて、今年のET/IoT開催概要について山田実行委員長より紹介と台湾パビリオン及び展示会来場を勧めました。

引き続き、TCA(台北市コンピュータ協会)とJASAとの新MOU調印式を執り行いました。新MOU締結に至る経緯等について門田専務理事より説明の後、交流協会石黒部長、台湾行政院 郭執行秘書の立会いの下、築田会長と櫻経理(杜総幹事代行)により調印が行われました。最後に加賀谷副会長の閉会の辞により本イベントを終了しました。



新MOU調印式

調印 TCA経理 楊櫻姿様、JASA会長 築田稔

立会人 台湾行政院執行秘書 郭耀煌様、交流協会貿易経済部長 石黒麻里子様

<新MOU締結の経緯>

2006年、TCAとJASAは、台日アライアンスを促進し、相互事業協力、ビジネス機会創出を目的に、MOU協定を締結。

以降この10年、エレクトロニクス及び情報技術分野における情報交流や展示会出展・参加、共催セミナーの開催等、2国間の橋渡しとして中心的な役割を担ってきました



たが、IoT時代を見据え、TCAとJASAはこれまでの実績を基に、更に発展的な事業協力を推し進めるべく、IoT分野での展開をも視野に、この度の新MOU締結となったものです。

今後の両団体活動は、両国のIoT、エレクトロニクス分野での更なる発展に寄与するものと期待されます。